

進学指導研究校としての取り組み（その1）

進学指導研究校とは、今年入学した高1生から始まる新たな大学入試制度について研究し、その成果を日々の授業や定期考査等の作問に反映させていく取り組みをする学校です。ここで新しくなる大学入試制度をまとめてみます。

- (1) センター試験→大学入学共通テスト（新テスト）への移行
- (2) 英語の4技能検定試験（民間）の活用
- (3) 高校3年間の活動記録（調査書・志望理由書など）を合否判定に活用
- (4) 推薦・AO入試の拡大

今回は、このうち(1)大学入学共通テスト（新テスト）の中身と対策についてご説明します。昨年実施された試行調査（プレテスト）では、例えば国語の記述問題は、高校新聞の記事や生徒会規約などの実用的な資料が問題の素材として利用され、その資料を読んで情報を整理したり、論理的に記述したりすることが求められました。

本校では、国語の記述問題について、複数の資料を読み取り、そこから得られる情報を考察し、文章にする力を養う必要があると分析し、記述力アップのために、字数制限を設けて要約する練習を行うことや、国語だけではなく、様々な教科で意識して記述力をつけるための学習を行っていくことにしました。また1年生の国語の授業では、生徒の読解力のアップを目指し、これまで授業の初めに行っていた漢字テストを語彙力のテストに切り替えるなど、日々の授業でもきめ細やかな対応を始めています。

本校の進学指導研究校としての取り組みは、今後もホームページ等を通じて、随時ご紹介してまいりますので、ぜひご期待ください。

平成30年7月26日

東京都立狛江高等学校 校長 平野 篤士